3.11東日本大震災 福島を肌で感じるツアー2016ミニシンポジウム
平成28年3月12日

南相馬市における コミュニティ創出のための復興支援活動

福島県立医科大学　災害医療支援講座
南相馬市立総合病院　神経内科

小鷹昌明

自己紹介

小鷹昌明（おだかまさあき）　昭和42年生
出身　埼玉県嵐山（らんざん）町

昭和62年	埼玉県立松山高等学校卒業
平成5年	獨協医科大学（栃木県）・医学部卒業
平成11年	同大学・大学院（神経内科）修了
	総合南東北病院（郡山市）　半年勤務
平成13年	グラスゴー大学（英国）留学
平成23年	獨協医科大学神経内科・准教授

一念発起というと大げさ・自分リセット
平成24年　南相馬市立総合病院神経内科
（神経難病支援）

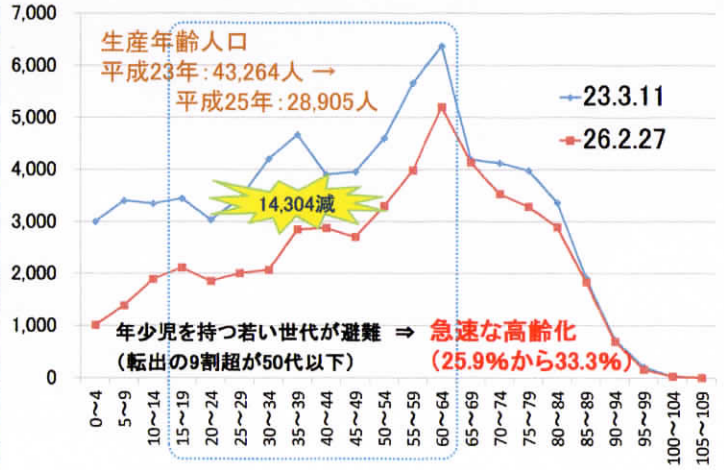
趣味：医療エッセイ
乗馬

福島県浜通り

2011年3月11日
世界初　トリプル災害

- 巨大地震
  （マグネチュード9.0・震度6）
- 津波：
  南相馬市北泉（津波高8.6m）
- 原発事故
  ・福島第一原発事故

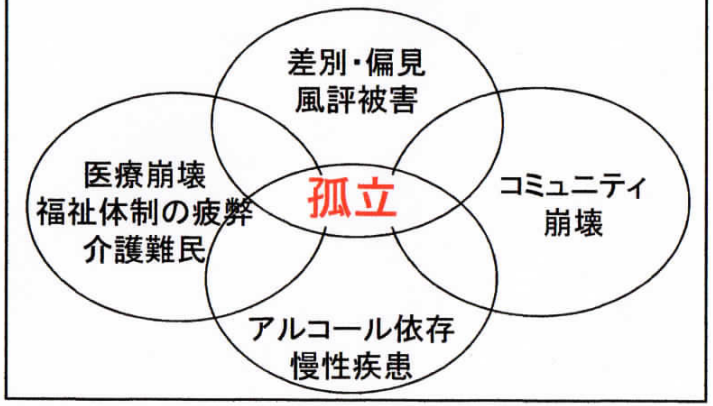
年齢別居住者数　震災前（平成23年3月11日）と現在との比較



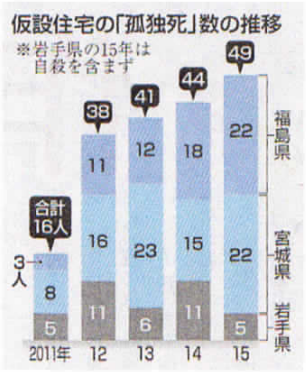
南相馬市における最大の不運

分断！

ポスト3.11
南相馬市で何が起こったか？



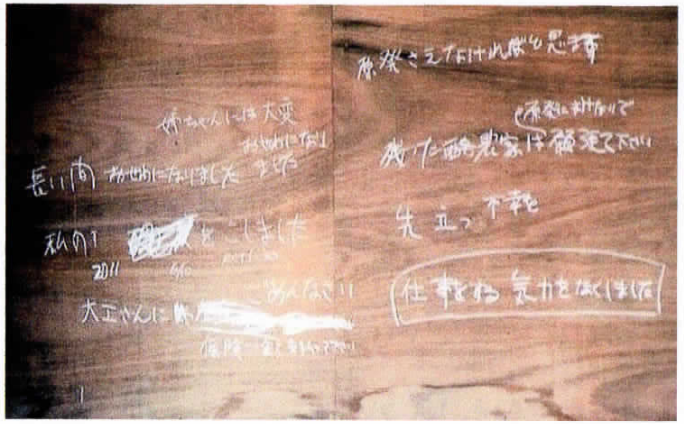
福島民友　平成28年3月1日



男性：女性の4倍
仮設住宅：空室

仮設孤独死 県内で66人

毎年増加、目届きにくく



「孤独死」

阪神・淡路大震災
1995年3月から約4年

244人（孤独死）/6430人（震災・震災関連死）

- 約7割　男性（男性174人：女性70人）
- 特に50～60歳代
- 無職
- アルコール依存（慢性疾患）

「震災死と孤独死の死因分析とその法医学的検討」
神戸大学都市安全研究センター研究報告　1998
神戸大学医学部法医学講座　上野易弘ら

仮設サロン

コミュニティの創出

“Team HOHPの立ち上げ

外へ・・・　街へ・・・　！

病院関係有志者　医師　4名　　MSW　2名
事務　4名　　看護師　4名

ホープ
- H = 引きこもり
- O = お父さん
- H = 引き寄せ
- P = プロジェクト

お父さんたちの趣味・興味？

『男の木工』教室

2013年1月～　毎週日曜日

仕掛け

- 街の復興お役立て木製品
- 公共施設に置かれるもの
- 共同でひとつのものを仕上げる
- プロの職人（全国建設労働組合総連原町）からの指導
- 子供たちの支援になるようなものも

作品リスト
（現在15人）

・テーブル	（小高区役所内カフェ「いっぷく屋」）：	5卓
	（南相馬ソーラー・アグリパーク）：	3脚
・作業台	（ほっと悠）	4脚
・陳列棚	（小高区役所内カフェ「いっぷく屋」）：	4棚
	（浮舟の里）：	1脚
・寄附札	（原町区映画館「朝日座」）：	1枚
・テーブルベンチ	（塚原公会堂）：	1セット
・ベンチ	（小高区駅前通り）：	3脚
	（南相馬ソーラー・アグリパーク）：	5脚
・メッセージボード	（小高区駅前通り）：	2枚
・花台	（日野市にも寄贈）：	10台
・本棚	（小高の小学校）：	5架
・足台	（小高の小学校）：	4台
・看板	（南相馬ソーラー・アグリパーク）：	1枚
	（花いっぱい運動）：	17枚
・鐙立て	（銘譲館）：	36領分
・足台	（37cafe@park）：	12台
・その他	（コースター　竹とんぼ）	

感謝状

男の木工 HOHEI
代表　小鷹 昌明 殿

書殿は南相馬市観光振興への深いご理解を示されるとともに甲冑着付け事業に際し甲冑一式をご寄付されましたことによってその ご厚意に対して本状並びに記念品を贈り深く感謝の意を表します

平成二十七年五月二十八日

一般社団法人 南相馬観光協会
会長　太田 正克

仕掛け

- 食事は人を笑顔にさせる
- 小高区(20 km圏内　旧・警戒区域)で開催することで、復興プロジェクトと位置付ける
- 小高区で飲食店を営んでいた店主を、講師として迎える(昔の味が懐かしい)
- 共同でひとつのものを仕上げる
- 高校生にも声掛け

『男の料理』教室

男とは？
それは、シャイでプライドの生き物である

- 男性5人に対して女性1人
- 男には居場所や役割が必要
- 特におしゃべりをしなくても、そこに居られる
- 頼られる何か（自尊心をくすぐる）
- 目標がある（上達する）
- 義理堅い

復興の基礎
男性の元気を取り戻す

私がこの街でやれること！

1. 診療（特に神経難病患者）のお手伝い
   →病院（診療・往診）
2. 福祉・介護システムの再構築
   →行政・事業所（講演会・研修会・つどい）
3. 生きがい・コミュニティの創出
   →有志者・NPO・ボランティア団体（市民活動）
4. 情報発信・啓発
   →メディア（取材・寄稿）

診療

医師からインフルエンザの予防接種を受ける住民＝寺内塚合仮設住宅

南相馬 インフルエンザの予防接種 仮設住宅でスタート

南相馬市立総合病院は十八日、医師や看護師らが市内の仮設住宅に出向いて実施するインフルエンザの予防接種を始めた。通院することが困難なお年寄りを中心に、不便な避難生活を続ける住民を支援しようと昨年に続き行われている。初日は同市鹿島区の寺内塚合、寺内塚合第二、小池長沼の各仮設住宅を医師三人や看護師一人らボランティアを含め計十七人が訪れ、計二百人ほどが予防接種を受けた。

病院は十二月九日まで、市内の各仮設住宅を回り、高校生以上の延べ約千人の予防接種を予定している。

患者会支援（パーキンソン病友の会）

（認知症の人と家族の会）

福祉・介護システムの再構築

世界アルツハイマーディ

介護士養成講座

福祉・介護職・介護者研修会

その他の地域活動

ラジオパーソナリティー担当
『医療の放送室』

市民マラソンチーム結成
（パトロール・ランニング）

エッセイ執筆

物産振興会会長就任

エッセイ講座開講

生きがいの模索

『相馬野馬追』
一千有余年続く伝統行事

一昨年9月

10月

12月

乗馬練習の日々

4月

6月

2月

昨年1月

2014年
『相馬野馬追』
2015年

ご静聴ありがとうございました